

まだまだある!! 地域を元気にする農業農村整備

～ 農村と都市との交流に寄与している「農業集落排水施設」 ～

【農村の生活環境の改善】



トイレの水洗化(イメージ)



田んぼの中の公衆トイレ(遠野市)

- ① 近年、県内の農村地域では、農作業体験などを含めたグリーン・ツーリズムを通して、都市との交流が盛んに。
- ② 参加者が農村生活を快適に過ごすためには、民泊農家や体験ほ場周辺の生活環境基盤の整備が必要
- ③ 農業集落排水施設は、トイレや風呂水などの生活排水処理を通じて、農村の生活環境の改善に加え、都市との交流にも寄与

【農村と都市との交流】



りんごの摘花体験(岩泉町)



イワナのつかみどり体験(葛巻町)

～ 地域の活性化に寄与している「農道」 ～

【物流の効率化など】



生産資材・生産物の流通(軽米町)



通作条件の改善(雫石町)

- ① 近年、県内の農道周辺では、産直施設や農家レストランが開設され、地域の特産物や“いなかの味”を求める来訪者で盛況
- ② 農家の新たな収入源となるほか、人が集まることで生まれる“語らい”が、農家の“やりがい”を醸成
- ③ 農道は、国・県道や市町村道と一体的な道路ネットワークを構成し、物流の効率化のみならず、地域の活性化にも寄与

【地域の活性化】



盛況の産直施設(奥州市)



“いなかの味”(久慈市)

作成：岩手県 農林水産部 農村計画課・農村建設課

TEL：019-629-5668 FAX：019-629-5679

E-mail：AF0006@pref.iwate.jp

URL：岩手県公式サイト <http://www.pref.iwate.jp/> →農村計画課・農村建設課 でサイト内検索

地域を元気にする農業農村整備

ほ場整備の導入

【整備前】



小区画・不整形の水田



排水不良の水田



【整備後】

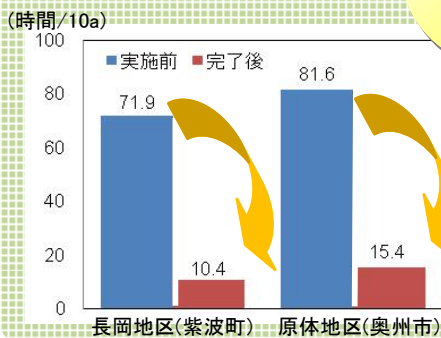


ほ場の大区画化
水田の乾田・汎用化
農地利用集積の加速化

〔経営体育成基盤整備事業 原体地区(奥州市) (H8~H15) 整備面積 68 ha〕

余剰労働力の発生

【稲作労働時間の短縮】



【作目導入の自由度拡大】



転作作物の安定生産



高収益作物の導入

6次産業化の展開

【農産物の加工・販売】



米粉パン工房



米粉パンの販売

地域の活性化!!



地域総出のオープンセレモニー

「夢の里工房はらたい」
〔平成 17 年 5 月 開設〕
米粉パンの製造・販売

ほ場整備を契機とした6次産業化の取組【事例1】

～ 「一集落一農場」の実践による地域の活性化（遠野市宮守町）～

1 ほ場整備事業の導入による生産性の向上

- ① 宮守川上流地区は、地形条件が厳しい典型的な中山間地域で、急傾斜地にある小区画・不整形な水田のため、大型機械の導入や農地の利用集積が困難な状況
⇒ 解決に向けて、県営ほ場整備事業（H6～H15）を導入
- ② 事業導入を契機に「集落営農」による“一集落一農場”を目指し、平成8年に宮守川上流生産組合を設立 ⇒ 平成16年に法人に移行
- ③ 「中山間地域直接支払制度」や「農地・水・環境保全向上対策」などを効果的に活用し、“一集落一農場”の取組を深化

<施工前>



【整備面積 101ha】

- ・地形に応じた水田の大区画化、水管理の合理化 ⇒ 労働時間の短縮
 - ・水田の汎用化 ⇒ 新規作物導入
 - ・農地利用集積：5.9% ⇒ 76%
⇒ “一集落一農場”の実践へ
- 【余剰労働力の創出】

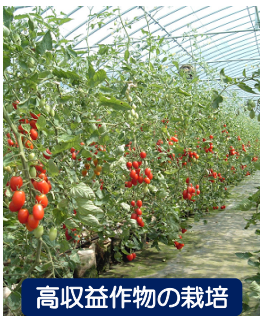
<施工後>



新たな経営の展開

2 農事組合法人「宮守川上流生産組合」の取組

- ① 観光農園（ブルーベリー、わらび）の開設に加え、農産物加工施設や産直施設の活用など経営の多角化を推進し、女性や高齢者の雇用を創出
- ② 農産物加工施設「きよらか豆腐工房」では、地場で生産された大豆を原料として豆腐、味噌を製造。また今年、「ジュース加工施設」を新設し、トマト、ブルーベリーのジュースの製造も開始
- ③ 生産した農産物や加工品は、産直施設「サンQふる郷市場」で販売するほか、地域の高齢者向けの宅配サービスに加え、インターネットによる全国販売も展開



生産



加工



販売



ほ場整備を契機とした6次産業化の取組【事例2】

～ 「集落営農組織」による先駆的な農産物加工の取組（金ヶ崎町）～

1 ほ場整備事業の導入による生産性の向上

- ① 北方地区は、近隣に大規模な工業団地を控え宅地需要もあり、農業生産基盤と住環境の一体的な整備が地域の課題 ⇒ 県営農村活性化住環境整備事業（H3～H8）を導入
- ② 事業導入を契機に平成5年に改断営農組合を設立し、低コスト生産の実現に向け、個人所有の農業機械を全て処分し組合に集約するなど、徹底した合理化を実践
⇒ 平成8年に「有限会社ライフクリエートケイ」に移行
- ③ ほ場整備と農業集落排水事業の一体的な施行、農村公園の整備により地域の居住環境が向上

<施工前>



【整備面積 118ha】

- ・ 水田の大区画化、水管理の合理化
⇒ 労働時間の短縮、農業機械の集約
- ・ 水田の汎用化 ⇒ キャベツ等の導入
- ・ 農地利用集積：23%→82%
⇒ 個別経営から集落営農へ
- ・ 住環境の整備 ⇒ 新住民との融和

【余剰労働力の創出】

新たな経営の展開

<施工後>



2 「(有)ライフクリエートケイ」の取組

- ① キャベツ、白菜等高収益作目の導入や農産物加工部門への進出等、経営の多角化により女性を中心に新たな雇用を創出
- ② 農産物加工施設「すがっこ工房」では、地場で生産された野菜・もち米を原料として漬物や餅を製造し、農産物の高付加価値化に貢献
- ③ 「すがっこ工房」で製造された漬物や餅等は地元大規模小売店の産直コーナー、地元産直施設、ふるさと宅急便等で販売するとともに、学校給食へも提供



生産



加工



主力商品「すがっこづくり」

販売

